【学校通信】

平成 29 年 3 月 6 日

第 22 号

西中の風

伊丹市立西中学校長
大西　規之

卒業に向けて
～卒業記念品ありがとうございます～

３年生の皆さん、いよいよ卒業が間近に迫ってきました。今の心境はどうですか。もう少し西中学校で仲間と一緒に過ごしたい。いやいや、４月からの次のステップに向けて早く心を切り替えて準備をしたい。春休みの間は思いっきり羽を伸ばしてのんびりしたい。人によって様々だと思います。とにかく残り少ない日を精一杯生活して思い出をつくり、４月に好スタートが切られるように頑張ってください。

さて、３月２日（木）に、職員室前廊下に「チャンピオンボード」が設置されました。今年の３年生の卒業記念品です。ボードには阪神大会から全国大会まで部活動等の成績を掲示できるようになっています。もうすでに平成２６年度以降本年度までの輝かしい成績を掲示しています。ぜひ、ご来校の際にはご覧ください。これから、戦績記録プレートがこのボードからあふれかえるくらいに各部活動はより一層練習に精進してください。３年生のみなさん、保護者の皆様ありがとうございました。大切に使わせていただきます。

～大人になった今でも忘れられない生きる力をくれた「先生のことば」～

今の時期、卒業していく子どもたちは大人からたくさんの励ましの言葉をもらっていたと実感するようです。特に先生から。大人になってその意味がわかった人。ずうっとその言葉を胸に抱いて頑張っている人。様々です。みなさんはどんな言葉に励まされたでしょうか。インターネットから「生きる力をくれた先生の言葉」を拾ってみました。一部紹介します。みなさんも「座右の銘」になるような言葉を持ってみてください。

①「今の辛さは将来の優しさへと変わる」

小学生のときからかわれ、辛い思いをしました。その時担任の先生が「今の辛さを覚えておいて。きっと将来、周りに優しい人になれるから」と言ってくださいました。

②「他人と自分を比べなくなった時、人は本当に自分を好きになれる」

小学６年生の頃、他人と比べてばかりで「私なんか」が口癖だった私に担任の先生が言った一言です。「私はわたし」。自信と信念をもってこれからも歩んでいきます。

③「何もしないで一日　何かしても一日」

中学３年生の時、先生がいつも口にしていた言葉です。みんなが自然と胸を打たれ「最後の中学生活をもっと有意義に過ごそう」と団結しました。

④「辛い、という漢字を、幸せ、という字に変えるのは自分の努力と思いやる心」

中学２年生の時、恩師がくれた言葉です。人生の壁にぶち当るたびにこの言葉に支えられてきました。先生、ありがとう。

⑤「ほめられて反省、叱られて感謝」

中学の時、遅刻して叱られ、落ち込んでいたら先生がくださった言葉です。ほめられた時には有頂天にならず反省し、叱られた時こそ「ありがたい」と感謝することが大切だと論されました。

⑥「人生に必要なのは、愛、運、縁、恩」

高校２年生の終業式で担任の先生からいただいたことばです。人生に必要な「あいうえお」は、愛情の「愛」、運勢の「運」、ご縁の「縁」、恩義の「恩」といわれ、今でも心に残っています。